

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな)	ともざわ かずお 友澤 和夫 ほか3名		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	印	広島大学文学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
地理学野外演習 地理学野外実験	HRMa-081301-2 10/401-2 HRMa-081401-2 10/402-2	6 (社会調査士資格を希望している 者で単位を取得できたものは4名)	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：「地理学野外演習」で学生各自が計画したテーマにそって、「地理学野外実験」にて現地で調査実習を行い、それを報告書にまとめるという形で実施した。卒業論文のいわば練習としての位置づけがある。現地では、とくにヒアリングを主体とした調査を実行したが、先方への事前の連絡や当日の訪問も学生個人が行い、教員はそのための相談役・アドバイザー役に終始した。報告書は教員のチェックを経た内容となっている。本年度は三重県で実施したが、受講した学生はいずれも真面目に取り組み、まずまずの成果を得ることができたと評価している。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：三重県鈴鹿市における自動車部品サプライヤー工場の集積と存立構造
2. 調査の内容/概要：鈴鹿市における本田技研のサプライヤーの生産活動をヒアリング調査に基づき明らかにする。
3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：質的調査に依拠した。鈴鹿市内には本田技研を核として、そのサプライヤーからなる産業集積が形成されている。今回は、サプライヤー2社を訪問しヒアリング調査を実施した。また、三重県庁や鈴鹿市役所でも関連する資料を収集した。
4. 主な調査項目：工場の歴史、生産品目の変化、生産システムの特徴、従業者構成、本田技研との関係。企業誘致や工業団地開発。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：現地でのヒアリング調査、各種資料の収集による。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：2010.6.28から7.1にかけて実施した。調査地は鈴鹿市であり、学生1名 (松本一樹) が実施した。
7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：本調査では企業へのヒアリングを主としており、質的調査といえる。事前にヒアリングしたい項目を送付しており、調査では良い情報が入手できたと評価する。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：学生が調査により収集したデータと、既存文献や統計類を組み合わせる方法をとった。
9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：サプライヤーの動向は、基本的には本田技研の生産活動により規定されている。基本的には随伴立地であること、二輪の鈴鹿から本田への生産シフトによる製造部品の変化、配送システムの高度化などに、それが現れている。
10. 報告書刊行の予定と概要：報告書は既に作成済みである。

- <記入上の注意点>
1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。
 2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。
 3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通り)にして、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけたら幸いです。
 4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな)	ともぎわ かずお 友澤 和夫 ほか3名		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	印	広島大学文学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
地理学野外演習 地理学野外実験	HRMa-081301-2/10/401-2 HRMa-081401-2/10/402-2	6 (社会調査士資格を希望している者 で単位を取得できたものは4名)	

I. 調査実習に関するコメント	
<p>学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：「地理学野外演習」で学生各自が計画したテーマにそって、「地理学野外実験」にて現地調査実習を行い、それを報告書にまとめるという形で実施した。卒業論文のいわば練習としての位置づけがある。現地では、とくにヒアリングを主体とした調査を実行したが、先方への事前の連絡や当日の訪問も学生個人が行い、教員はそのための相談役・アドバイザー役に終始した。報告書は教員のチェックを経た内容となっている。本年度は三重県で実施したが、受講した学生はいずれも真面目に取り組み、まずまずの成果を得ることができたと評価している。</p>	
II. 調査の企画・設計 (デザイン)	
1. 調査のテーマ/領域：伊勢神宮前町におけるまちづくりの展開と成功の要因	
2. 調査の内容/概要：伊勢神宮前町（通称、おはらい町通り）を対象に、観光地としてのまちづくりの成功について、ヒアリング調査に基づき明らかにする。	
3. 調査の範囲/対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：質的調査に依拠した。おはらい横町の運営会社である(有)伊勢福、おはらい町を構成する店舗に対してヒアリング調査を実施した。伊勢市役所でも関連する資料を収集した。	
4. 主な調査項目：おはらい町の歴史、まちづくりに関わった組織の構成と活動内容、立地店舗の特徴や現状。	
III. データ収集の方法と結果	
5. データ収集（現地調査）の方法：現地でのヒアリング調査、各種資料の収集による。	
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：2010.6.28から7.1にかけて実施した。調査地は伊勢市であり、学生1名（秋月優実）が実施した。	
7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：本調査では運営会社や商店街を構成する店舗へのヒアリングが主体であり、質的調査といえる。運営会社には事前にヒアリングしたい項目を送付しており、効率よく良い情報が入手できたと評価する。商店街を構成する店舗に対しては、飛び込みで調査した。	
IV. データ分析の方法と結果	
8. データ分析/解釈の方法：学生が調査により収集したデータと、既存文献や統計類を組み合わせる方法をとった。	
9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：旧来の門前町の特徴を活かして、修景を加えつつ、企業的な発想を持ち込んだ「まちづくり」がなされた。入居企業の入れ替わりもみられ、イベント活動も活発に行われている。こうした方法により、入り込み客の増加につなげている。	
10. 報告書刊行の予定と概要：報告書は既に作成済みである。	

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部的*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通り)にして、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。

科目担当者氏名		科目担当者連絡先(メールアドレス)	
(ふりがな)	ともざわ かずお 友澤 和夫 ほか3名		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	印	広島大学文学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
地理学野外演習 地理学野外実験	HRMa-081301-2/0/401-2 HRMa-081401-2/0/402-2	6 (社会調査士資格を希望している者 で単位を取得できたものは4名)	

I. 調査実習に関するコメント	
<p>学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：「地理学野外演習」で学生各自が計画したテーマにそって、「地理学野外実験」にて現地調査実習を行い、それを報告書にまとめるという形で実施した。卒業論文のいわば練習としての位置づけがある。現地では、とくにヒアリングを主体とした調査を実行したが、先方への事前の連絡や当日の訪問も学生個人が行い、教員はそのための相談役・アドバイザー役に終始した。報告書は教員のチェックを経た内容となっている。本年度は三重県で実施したが、受講した学生はいずれも真面目に取り組み、まずまずの成果を得ることができたと評価している。</p>	
II. 調査の企画・設計(デザイン)	
1. 調査のテーマ/領域：鈴鹿市における花木栽培の展開と農家の経営形態	
2. 調査の内容/概要：全国的にも花木の産地として知られる鈴鹿市を対象に、花木栽培の発展過程と担い手である農家の変化を明らかにする。	
3. 調査の範囲/対象(量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：質的調査に依拠した。JA鈴鹿・鈴鹿市役所での産地全体にかかわるヒアリング・資料収集を踏まえて、花木栽培農家3戸へのヒアリング調査を実施した。	
4. 主な調査項目：花木栽培の歴史、産地としての生産や出荷の現状、個別農家の経営状態。	
III. データ収集の方法と結果	
5. データ収集(現地調査)の方法：現地でのヒアリング調査、各種資料の収集による。	
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：2010.6.28から7.1にかけて実施した。調査地は鈴鹿市であり、学生1名(東村奈保)が実施した。	
7. 収集したデータの量と質への評価(量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：本調査では農協や農家へのヒアリングが主体であり、質的調査といえる。農家は、農協から紹介してもらい、事前に作成していた質問票にもとづいて実施し、均質で詳細なデータを入手することができた。	
IV. データ分析の方法と結果	
8. データ分析/解釈の方法：学生が調査により収集したデータと、既存文献や統計類を組み合わせて分析・解釈する方法をとった。	
9. 調査の成果(調査から得られた主な知見など)：1970年前後から花木栽培が広がり、現在の主な市場は関東方面となっている。農家は、花木の生産のみならず卸売も行っている点に特徴がある。	
10. 報告書刊行の予定と概要：報告書は既に作成済みである。	

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に減って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。

科目担当者氏名		科目担当者連絡先(メールアドレス)	
(ふりがな)	ともざわ かずお 友澤 和夫 ほか3名		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	印	広島大学文学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
地理学野外演習 地理学野外実験	HRMa-081301-2 / 0/401-2 HRMa-081401-2 / 0/402-2	6 (社会調査士資格を希望している者 で単位を取得できたものは4名)	

I. 調査実習に関するコメント	
<p>学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：「地理学野外演習」で学生各自が計画したテーマにそって、「地理学野外実験」にて現地で調査実習を行い、それを報告書にまとめるという形で実施した。卒業論文のいわば練習としての位置づけがある。現地では、とくにヒアリングを主体とした調査を実行したが、先方への事前の連絡や当日の訪問も学生個人が行い、教員はそのための相談役・アドバイザー役に終始した。報告書は教員のチェックを経た内容となっている。本年度は三重県で実施したが、受講した学生はいずれも真面目に取り組み、まずまずの成果を得ることができたと評価している。</p>	
II. 調査の企画・設計(デザイン)	
1. 調査のテーマ/領域：鳥羽市国崎における海女漁業の生産形態	
2. 調査の内容/概要：鳥羽市国崎地域を対象に、海女漁業の存続要因を、ヒアリング調査に基づき明らかにする。	
3. 調査の範囲/対象(量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：質的調査に依拠した。漁業や市役所で関連する資料を収集した上で、海女数名に対してヒアリング調査を実施した。	
4. 主な調査項目：海女漁業の概要、規制、漁獲高の推移。海女のライフヒストリや生活パターン。	
III. データ収集の方法と結果	
5. データ収集(現地調査)の方法：現地でのヒアリング調査、各種資料の収集による。	
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：2010.6.28から7.1にかけて実施した。調査地は伊勢市であり、学生1名(久茂谷真菜)が実施した。	
7. 収集したデータの量と質への評価(量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：本調査では漁業や海女へのヒアリングが主体であり、質的調査といえる。漁業には事前にヒアリングしたい項目を送付しており、効率よく良い情報が入手できたと評価する。海女は漁業より紹介してもらったが、入手したデータにはやや均質性を欠くものがあった。	
IV. データ分析の方法と結果	
8. データ分析/解釈の方法：学生が調査により収集したデータと、既存文献や統計類を組み合わせる方法をとった。	
9. 調査の成果(調査から得られた主な知見など)：当地区では海女漁業にかかわる規制が厳しく、その中で漁労が営まれている。海女の減少や高齢化が問題であり、海女漁のみでは生計が立たず、世帯としては他産業との兼業が一般的である。	
10. 報告書刊行の予定と概要：報告書は既に作成済みである。	

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部的*印の箇所には数字を「*/」には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通り)にして、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。